

動詞価成分の多様性

趙順文

東呉大学副教授

【中文摘要】本文以湯氏及北原氏の二分分枝模式，修正動詞的搭配成分為「名詞組」及「副詞（組）」，並以基本動詞 1000 語左右為語料加以分析，結果發現到動詞價可歸納為 1~4 價，但其下位分類的動詞價成分却甚多。並且動詞價最基本的成分可確認為【__が】【__が__に】【__が__を】【__が__を__に】4 類，不考慮到位格「に」，則跟傳統的「自・他動詞」有異曲同工之處。

透過此動詞價成分分類的實證研究，對於現代日語動詞句的基本構造實際應用狀況，筆者可說提供了一客觀的準則，對於日語教育的從事者，此論文可說頗有參考的餘地。

【關鍵字】二分分枝模式・「名詞組」・「副詞（組）」・動詞價成分・位格「に」

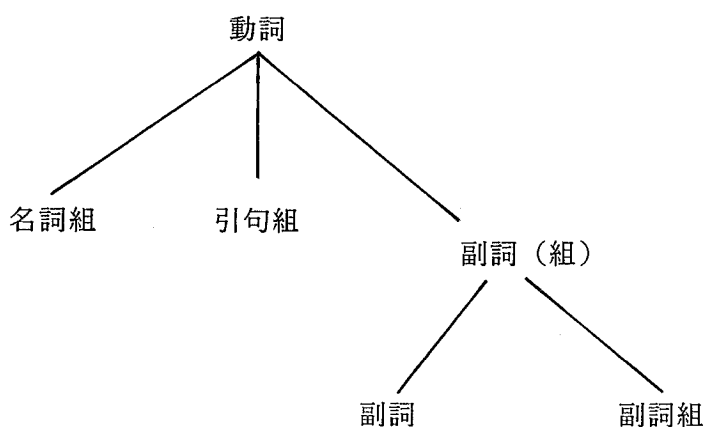
1. はじめに

拙論「動詞結合価の記述と分析への試案」では動詞 1000 語の結合価を示したが、これらの動詞を形式的ないし意味的に類似した動詞価のクラスとしてカテゴリー化するに至っていない。むしろ、拙論「結合価文法から見た動詞の三つの必須成分」ではこの動詞価の分類に多少言及しているが、その内容はいかにも粗雑であるかは筆者にも分かっている。従って、小稿の目的はこれらのものをもとに

して動詞価の下位分類をさらに深く探究し、その多様性をさぐろうと試みるところにある。

2. 動詞価は必須成分の数で決まる

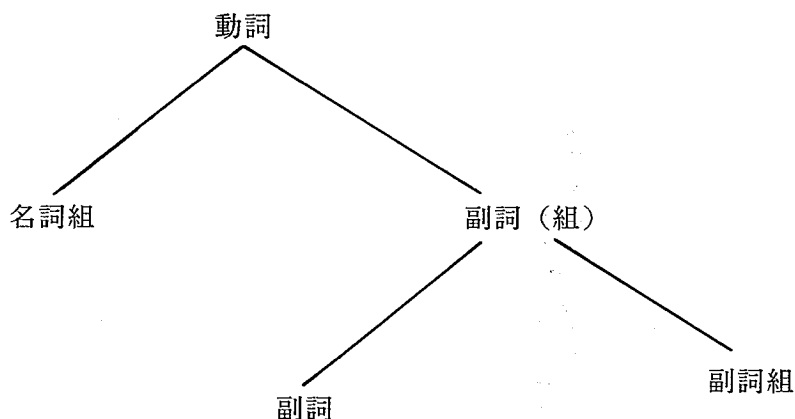
どの言語もそうだが、およそ文の核心は述語なканずく動詞述語であろう。日本語だと、動詞の実現において「名詞組」「副詞（組）」「引句組」などの成分が持たれることはすでに筆者が繰り返して主張するところだ。そして「副詞（組）」はさらに「副詞」と「副詞組」とに分けられる。前者はあらためて云々する必要はないが、後者は文に接続助詞などを付え加えたものと定義できよう。記述を簡潔にするために「副詞」「副詞組」を「副詞（組）」にまとめよう。枝分れ図で示せば次の如くである。



しかし、その後、動詞価をめぐる諸問題をもう一度深く考え直すと、「……と」「……するようにと」「……しようと」などの引用文は文中においてすべて接続助詞「と」でしめくくられるのが分かった。^❶従って、引用文は一種の「副詞組」

❶ 「……と」は終止形で終わる文に助詞「と」を付け加えたもの、「……するようにと」はV_oで終わる文に「ようにと」を添えたもの、「……しようと」はV_oに助動詞「（よ）う」さらに助詞「と」を加えたものをそれぞれ示す。

に属するものと認められよう。もっとも「……するようと」は実際の文脈において「と」ないし「にと」なしの「……するよう」の形で表現されることが多いけれども、一種のはしょった形と言える。かくて前述した枝分れ図を次のように修正した。

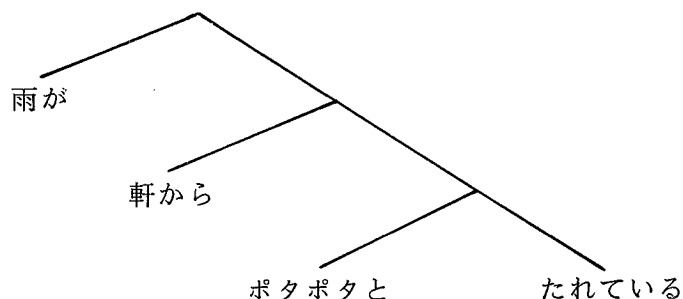


一方、動詞の実現において必要不可欠な成分とそうでない成分が持たれることは衆知の通りであるが、動詞価の記述分析に関しては必要不可欠な成分いわゆる必須成分が問題にされるのに対し、そうでない成分いわゆる選択成分は不問に付される。動詞価とはある特定の動詞の実現にかかわる必須成分の数なので、当然ながら動詞価成分を動詞価の必須成分と定義できよう。以下これらの内容を深く吟味してみる。

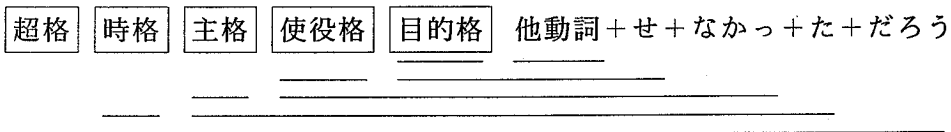
これについて実は甲論乙駁で一致した見解は出ていない。しかも、その内容は名詞に付いた格助詞に限定されているのがほとんどである。石綿・荻野（1983）では文に付いた「と」を必須成分の一つと定義して「日本語用言結合価表」に組み入れたこと、益岡（1984）では「副詞組」まで言及していないものの、副詞に相当する「副詞的補足語」を必須成分の一つに立てたこと、趙（1989）では「……

筆者は前掲の「結合価文法から見た動詞の三つの必須成分」の中で動詞価を動詞群にかかる必須成分の数としていくつか立てた。しかし、その分類は緻密では決してなく、修正すべき余地は大いにある。以下同じ基本動詞 1000 語を資料としてその具体的動詞価の分類を記述してみよう。

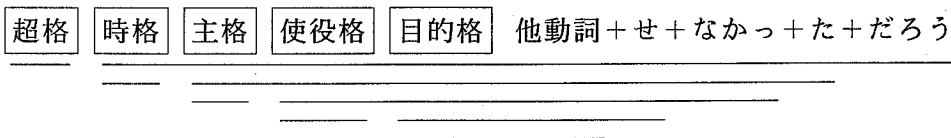
分類を記述する前に動詞価の内容をもう一度吟味する。思うに動詞価の記述に際しては二叉枝分かれ図で表現されるのが望ましいだろう。これはすでに湯（1990）の述べたところである。^②例えば「雨が軒からポタポタとたれている」は次のように図示されよう。



しかし、細かい内容こそ違え、この二叉枝分かれ構造と非常に似た北原（1981）がある。氏によると、日本語の文の基本的な構造は助動詞の相互承接に考慮を入れて次のように図示される。

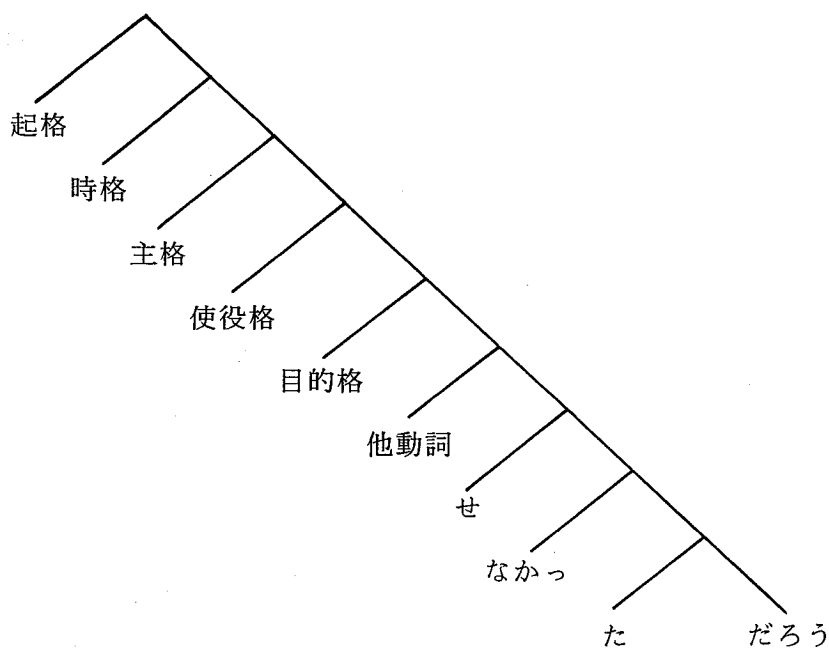


この図の矢印の上下順序を逆にすると、次の如くである。

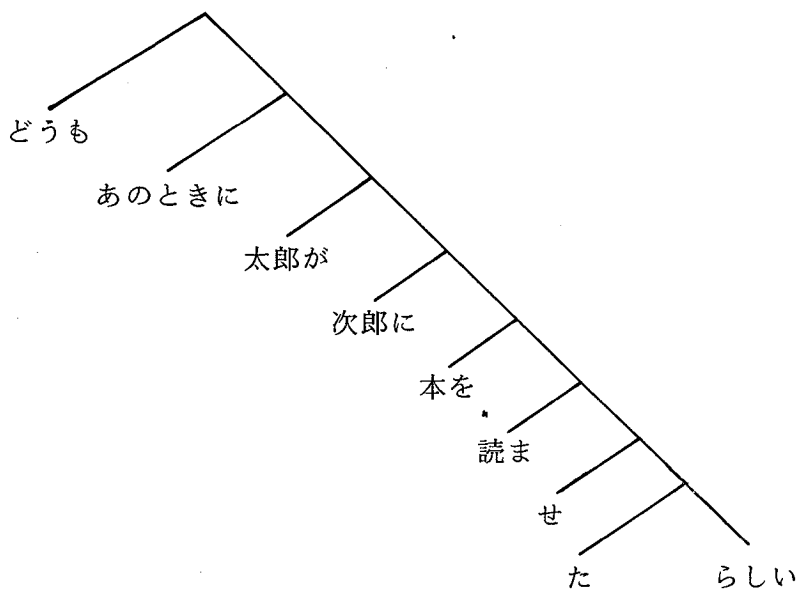


②「対照研究と文法理論(-): 格位理論」を参照されたい。

これははまた次のように書き直すと、ほぼ二又枝分かれ図と一致していることが分かった。



例えば「どうもあの時に太郎が次郎に本を読ませたらしい」は上例にならって次のような二又枝分かれ図で表現されよう。



北原氏では「超格」はモダリティーにかかわるし、「時格」は「主格」を優先させ、時制にかかるが、両者とも、例えば「原油がドロドロと流れ出した」に出る「ドロドロ」と同じく「副詞」に属すると言えよう。もちろんこれらの内容の細部は必ずしも一致しているとは限らなく、湯氏と照らし合わせて興味深い所があるので、研究する余地は大いにあるものの、動詞価の「副詞（組）」に限っては事情は決して複雑ではない。つまり、日本語に即して、「…く」「……て」「……と」などかあげられよう。もっとも「……と」に関してはさらに細分化できる。動詞価の定義に基づいてこれまで筆者が用例を通して採集した「名詞組」と「副詞（組）」との必須成分になりうる具体的単位は次の表にまとめられる。

「名詞組」の必須成分

格の場合	格が置換可能の場合	補文プラス格の場合	補文プラス格が置換可能の場合
—が	—を [に]	……のを	……の [こと] を
—を	—を [で]	……ことを	……の [こと] に
—に	—を [に・へ・まで]	……かを	……の [ところ] を
—と	—に [と]	……のに	……ことを [に]
—から	—に [で]	……ことに	……ことに [と]
	—に [へ]		……かを [で]
	—に [へ・まで]		……の [こと] を [に・で]
	—に [から]		……の [こと] に [で]
	—に [として]		
	—と [として]		

「副詞（組）」の必須成分

副詞	副 詞 組		
	文が「て」で終わる場合	文が「と」で終わる場合	文が特定の動詞活用 プラスと「と」で終わる場合
...くて	...とと（もの）と（もの・こと）とかと（ではない）かとしろとしたいとするようにとしようとしてほしいと

上述した「名詞組」ないし「副詞（組）」の必須成分を示す用例を一つずつあげれば次のようである。

- (1) 殺人・銀行強盗など、大きな事件が相次ぎ、小さな町は大騒ぎだ。（国・3）
- (2) 漫画もおもしろいけれど、昔話のおもしろさを、じっくり味わって読むのも楽しい。（国・15）
- (3) 大阪は東京に次いで、日本で二番目に大きい都市です。（国・506）
- (4) 彼は多くの困難と闘って、ついに目的を果たすことができた。（国・451）
- (5) 風呂から上がって飲むビールの味は特別だと、父が言っていた。（国・6）
- (6) 彼はとてもあなたを〔に〕感謝している。（日・63）
- (7) 米国とソ連が宇宙開発を〔で〕競争した。（日・77）
- (8) 完休みを利用して能登半島を〔に・へ・まで〕旅行する計画です。（日・1475）
- (9) 雄作は性格は母親に〔と〕、容ぼうは父親に〔と〕似ている。（ニュ・1052）
- (10) うちの娘はにきびに〔で〕悩んでいる。（ニュ・1026）
- (11) ぼくはこの冬休みに沖縄に〔へ〕行く予定です。（ニュ・70）
- (12) 彼は部長の地位に〔へ・まで〕進んだ。（基・259）
- (13) きみに〔から〕いくら借りてたっけ。（ニュ・307）

- (14) 学生は第一外国語に〔として〕フランス語を選択した。(日・139)
- (15) この店は客を客と〔として〕扱わない。(日・8)
- (16) 息子は、父が車を洗うのを手伝った。(日・177)
- (17) この標識は車が入ってはいけないことを意味している。(日・19)
- (18) 運転手は、ガソリンがあとどれぐらい残っているかを調べた。(日・125)
- (19) 祖母は孫があまりにだらしないのに呆れていた。(日・4)
- (20) 親は息子が外国に留学することに賛成した。(日・110)
- (21) 会社は海外に進出するの〔こと〕をまだ諦めてはいない。(日・3)
- (22) みんなは誰かの悪口を言うの〔こと〕に飽きている。(日・4)
- (23) 幼児は危うくバイクにはねられそうになったの〔ところ〕を助かった。
- (24) 御親切に教えていただいたことを〔に〕感謝します。(日・69)
- (25) 市内の高校はどちらが進学率を上げるかを〔で〕競争した。(日・77)
- (26) この新技術の開発は不振に陥った会社を再建できることに〔と〕関係している。(日・68)
- (27) 母は子供が嘘をついたの〔こと〕を〔に・で〕怒った。(日・36)
- (28) 住人は水商売の女が出入りするの〔こと〕に〔で〕迷惑している。(日・262)
- (29) この写真は弘美がよく写っている。(ニュ・135)
- (30) 帰り道がわからなくてひどく困った。(ニュ・498)
- (31) あいつは自分の実力を最高だと威張っている。(日・19)
- (32) さて、ヘロデは博士たちにだまされたと知って、非常に立腹した。(マ・16)
- (33) 多くの人が、この病気は治らない(もの)と諦めている。(日・5)
- (34) 私は、母は私の就職を喜んでくれる(もの・こと)と思う。(日・47)
- (35) 医師はわたしにどこが悪いのかと聞いた。(ニュ・336)
- (36) FBIは彼が米国海軍の秘密をソ連に売ったの(ではない)かと疑っている。
(ニュ・128)
- (37) 彼はその娘に逃げろと合図した。(ニュ・3)

- (38) 国語の教員免許を持つ彼はいっかは教師になりたいと願っていた。(国・819)
- (39) 彼らは彼女にすぐに出て行くようにと要求した。(ニュ・1436)
- (40) 姉は、演奏会を成功させようと頑張っている。(日・71)
- (41) 会社は警察に事件を捜査してほしいと頼んだ。(基・300)

上述した用例を見ると動詞の必須成分いわゆる動詞価は従来の考え方と違っていかに多種多様であるかが分かる。もっとも、「―を[で]」、「―を[に・へ・まで]」、「―に[と]」、「―に[で]」、「―に[へ]」、「―に[へ・まで]」、「―に[として]」、「―と[として]」などは必須成分に属しうののに対し、「―で」「―へ」「―まで」「―として」といったものは例外なくいずれも唯一の使い方を持っておらず、万遍なく外の助詞によって置換されるから、この場合にのみ、従属的な必須成分と言えよう。

なお、動詞によってその置換内容はよりけりである。例えば、用例(12)では「進出」は「に・へ・まで」を使えるが、用例(6)では「旅行する」は「に・へ・まで」にさらに「を」一つ付け加えることができる。助詞の使い方の差異こそあれ、これらの特定の動詞に限っては意味的にほぼ同じように取れよう。また、「……(こと・もの)と」>「……(もの)と」>「……と」>「…と」及び「……(ではない)かと」>「……かと」にはヒエラルキー関係が見られる。例えば「思う」はこれらの必須成分をすべて有しているが、外の動詞はその一部しか付加できない。「考える」に即して言てば「……(もの)と」「……と」「…と」「……(ではない)かと」「……かと」の用例がいくらでもあるにもかかわらず、「…ことと」の用例はなかなか見付からない。

一方、補文が疑問文の場合は「……か」だけを上表に載せてあるが、実際「……かどうか」の形も出ている。前者はマルチ・チョイスの疑問文であるのに対し、後者は二者択一の疑問文であることに注意されたい。つまり、「……か」は疑問詞を伴っているのと対照的に、「……かどうか」は疑問詞を内蔵できないのが普通だから、両者は一種の相補分布をなすものと思われる。「……するようにと」

に至っては「に」と「が」があるかどうかは微妙な点で違っているものの、ここでは不問に付する。

3. 動詞価成分の分類

以上の考察により、動詞の実現において必須成分がいかに豊かであるかはうなづけるが、これらの個々たる必須成分同士のすべての組合わせは現実において成立できないところから、実際の用例を通して、個々たる必須成分同士の有効な組合わせ即ち動詞価成分を探る必要はある。記述・分析の資料としては「動詞結合価の記述と分析への試案」に出る 1000 語の動詞結合価表を中心に、動詞価成分の分類を求めている。もっとも、これは万全を期して綿密に調べた上で分けようと努力したが小稿では掬い切れなかったものもある。それにしても、動詞価成分の全体を概観するのに大いに参考になると思う。まず次の表を見られたい。

動詞価成分分類表

	動詞価 1	動詞価 2	動詞価 3	動詞価 4
名 詞 組 の 場 合	—が	—が—を	—が—を—to	
		—が—to	—が—to	
		—が—from	—が—from	
		—が—from	—が—from	
			—が—to	
			—が—to	
			—が—to	
			—が—to	
		—が—to [to]	—が—to [to]	
		—が—to [to・to]	—が—to [to]	
		—が—to [to・toまで]	—が—to [from]	
		—が—to [to]	—が—to [to]	

		—が—to [で] —が—to [へ] —が—to [へ・まで] —が—to [として]	—が—to—and [として] —が—to [と] —に —が—to [で] —と	
名 詞 組 が 補 文 内 蔵 の 場 合		—が.....のを —が.....ことを —が.....かを —が.....のに —が.....ことに —が.....かに	—が—to.....ことを —が—to.....かを —が.....のに—to	
		—が.....の [こと] を —が.....の [こと] に —が.....の [ところ] を —が.....ことを [に] —が.....こと [に] と —が.....かを [で] —が.....の [こと] を [に] —が.....の [こと] を [に・ で] —が.....の [こと] に [で]	—が—to.....の [こと] を —が.....の [こと] を—to [で]	
名 詞 組 プ		—が...く —が.....て —が.....と —が..... (もの) と —が..... (もの・こと) と —が..... (ではない) かと	—が—to...く —が—to...と —が—to.....するようにと —が—to...く —が—to.....と —が—to.....かと	—が—to—to...く —が—to—to...と

ラ ス 副 詞 組 の 場 合	—が.....したいと	—が—に.....するようにと	
	—が.....しようと	—が—に.....しろと	
	—が.....しようかと	—が—に.....しようと	
		—が—に.....してほしいと	
	—が.....しようと [する ようにと]	—が—に [から]と	
		—が—に [から]する ようにと	
		—が—に.....しろと [する ようにと]	
		—が—に.....しようと [す るようにと]	
		—が—に.....してほしいと [するようにと]	
		—が—を [に]しろう と [するようにと]	

これらの動詞価成分はいずれも有効な組み合わせであるが、これに属する動詞は基本動詞 1000 語の内、1 語しかないものもあるし、【—が—を】の如く、580 語に達するほどもっとも多いものもある。つまり、どのタイプの動詞価成分に属するかは動詞自身の意味特徴によりけりである。繰り返して言うが、入手できる用例は限られているから、次に取り上げた動詞価成分分類表から漏れているものも多少あると思う。

A. 動詞価 1 の場合

(1) 【—が】

〔例〕今日はよく晴れて風も強いので、洗たくものがもう乾いた。

+相次ぐ	合う	上がる	あく	あける
焦る	遊ぶ	あたたまる	当たる	溢れる
余まる	歩む	争う	改まる	あらわれる
ある	歩く	+荒れる	言いける	生きる
行く	急ぐ	いたむ	威張る	居る
浮く	動く	歌う	+俯く	うつる
頷く	売れる	+運動する	影響する	得る
終える	起きる	遅れる	おこる	おさまる
落ち着く	落ちる	訪れる	おどる	+衰える
折れる	終わる	+外出する	かえる	輝く
欠ける	重なる	固まる	傾く	かたよる
勝つ	+活動する	構える	通う	+かれる
+かわく	かわる	完成する	消える	+きく
決まる	協力する	切れる	腐る	崩れる
+碎ける	+草臥れる	下る	曇る	繰り返す
来る	狂う	暮れる	結婚する	決定する
煙る	交際する	+行動する	+凍る	呼吸する
焦げる	凍える	+故障する	異なる	断る
零れる	こむ	凝る	転がる	壊れる
+混乱する	栄える	下がる	+作業する	叫ぶ
裂ける	+錆びる	+冷める	さめる	去る
騒ぐ	試合する	沈む	実現する	失敗する
失礼する	死ぬ	しびれる	しまる	湿る
しゃがむ	喋る	生じる	+食事する	+進歩する
過ぎる	+空く・透く	優れる	進む	滑る
済む	+澄む	する	すわる	生活する

成功する	迫る	育つ	聳える	揃う
存在する	対する	+絶える	倒れる	高まる
助かる	たたかう	立つ	+経つ	溜まる
黙る	ためらう	足りる	違う	近付く
縮む	散る	通じる	支える	疲れる
尽きる	付く	点く	続く	繋がる
眩く	潰れる	躓く	詰まる	積もる
釣る	+出来上がる	照る	出る	遠ざかる
通る	+尖る	独立する	解げる	溶ける
閉じる	ととのう	怒鳴る	飛び込む	とぶ
伴う	努力する	なおる	流れる	なく
なくなる	並ぶ	生る	鳴る	似合う
煮る	匂う	臭う	逃げる	濁る
似る	抜ける	眠る	寝る	残る
のびる	のぼる	はえる	拍手する	励む
化ける	始まる	走る	弾む	外れる
働く	+発達する	発展する	はなれる	跳ねる
流行る	+張り切る	+腫れる	+冷える	光る
引く	響く	開く	広がる	ふえる
ふく	+ふくらむ	+ふくれる	+塞がる	塞ぐ
不足する	ぶつかる	+太る	降る	震える
振舞う	減る	変化する	吠える	微笑む
+滅びる	舞う	曲がる	まごつく	混ざる
混じる	交わる	間違う	纏まる	間に合う
回る	見える	+乱れる	満ちる	見付かる
+実る・稔る	向く	蒸す	+目立つ	+儲かる

儲ける	燃える	持つ	漏る	漏れる
役立つ	焼ける	休む	+瘦せる	破れる
+止む	遣る	歪む	緩む	揺れる
汚れる	蘇る・甦る	喜ぶ	弱る	恋愛する
分かれる	沸く	笑う	割れる	

B. 動詞価 2 の場合

(1) 【―が―を】

〔例〕秋になると、サケは卵を産みに海から川へやってくる。（日・28）

+愛する	+明かす	上がる	諦める	あく
あける	あげる	+味わう	預かる	焦る
暖める	扱う	集める	眺める	当てる
+浴びる	編む	+誤る	歩む	+洗う
+荒す	改める	あらわす	歩く	合わせる
慌てる	案内する	言う	生かす	生きる
行く	+弄る	急ぐ	いただく	いたむ
いためる	+労る	+営む	祈る	意味する
+嫌がる	入れる	祝う	+受け付ける	受ける
動かす	動く	失う	埋める	歌う
疑う	うつ	うつす	訴える	移る
促す	奪う	+うむ	埋める	+裏切る
恨む	売る	運転する	描く	選ぶ
+演じる	遠慮する	追う	負う	終える
おかす	拝む	+補う	置く	おこす
+行う	おさえる	おさめる	教える	惜しむ
押す・推す	+襲う	恐れる	落ちる	落とす

訪れる	おどる	驚かす	驚く	帯びる
覚える	思い出す	思う	泳ぐ	おりる
+織る	折る	おろす	終わる	解釈する
買う	+飼う	返す・帰す	かえりみる	返る・帰る
かえる	抱える	掲げる	+掻き回す	限る
書く	+掻く	+嗅ぐ	隠す	駆ける
賭ける	囲む	重ねる	飾る	+噛る
+稼ぐ	数える	片付ける	傾ける	固める
語る	担ぐ	悲しむ	+兼ねる	+庇う
被る	構う	構える	我慢する	噛む
通う	からかう	+刈る	かわる	考える
歓迎する	完成する	記憶する	聞く	刻む
築く	+傷付ける	決める	嫌う	切る
着る	記録する	+食う	くぎる	崩す
下る	工夫する	+組み立てる	組む	くむ
比べる	繰り返す	くるむ	加える	計画する
+経験する	計算する	+化粧する	消す	決心する
決定する	+蹴る	研究する	検査する	見物する
後悔する	+合計する	肯定する	こえる	誤解する
呼吸する	+漕ぐ	心得る	心掛ける	志す
試みる	拵える	こす	擦る	+好む
零す	+ごまかす	困る	込める	+堪える
転がす	転がる	殺す	壊す	+遮る
さかのぼる	さがす	下がる	裂く・割く	叫ぶ
避ける	下げる	差す	刺す	指す
誘う	定める	+察する	悟る	+冷ます

さます	+妨げる	去る	さわる	散歩する
+仕上げる	叱る	敷く	しくじる	刺激する
試験する	支度する	実験する	実現する	実行する
失敗する	失礼する	指導する	+支配する	支払う
縛る	絞る・搾る	仕舞う	示す	しめる
占める	+修理する	+受験する	+手術する	主張する
出発する	+出版する	生じる	招待する	承知する
証明する	調べる	知る	+信仰する	信じる
心配する	+信用する	吸う	過ぎる	救う
掬う	過ごす	進む	進める	すてる
滑る	済ます	する	+擦る	製造する
整理する	背負う	接する	+攻める	+責める
世話する	選挙する	+洗濯する	+掃除する	想像する
育てる	+卒業する	備える	染める	+刺る
揃える	+尊敬する	+代表する	倒す	+耕す
+炊く	焚く	抱く	確かめる	足す
出す	助ける	尋ねる	訪ねる	たたかう
叩く	畳む	達する	立てる	楽しむ
頼む	食べる	騙す	黙る	試す
ためる	保つ	頼る	誓う	縮める
中止する	散らす	貰やす	通過する	通じる
使う	+掴まえる	+掴む	突き当たる	突く
尽くす	+作り上げる	つくる	付ける	点ける
漬ける	告げる	都合する	+伝う	伝える
伝わる	続ける	+謹しむ	包む	とめる
繋ぐ	漬す	呟く	瞑る	+摘む

積む	詰める	+貫く	連らねる	攀る
吊るす	+連れる	訂正する	手伝う	照らす
出る	尊ぶ・貴ぶ	遠ざかる	通す	通る
とかす	解く	+説く	+遂げる	退ける
閉じる	+ととのえる	飛ばす	飛ぶ・跳ぶ	とまる
とめる	伴う	とらえる	取り扱う	とりかえる
+取り消す	+取り締まる	+取り巻く	とる	なおす
流す	眺める	流れる	+慰める	なくす
殴る	なげく	投げる	成す	+撫でる
+怠ける	なめる	鳴らす	並べる	逃がす
握る	+憎む	逃げる	+睨む	+煮る
縫う	抜く	+脱ぐ	抜ける	盗む
濡らす	塗る	願う	捻る	+狙う
+練る	残す	乗せる	除く	覗く
望む	+臨む	+のびる	述べる	のぼる
飲み選む	のむ	はかる	穿く・履く	掃く
吐く	+励ます	運ぶ	挟む	+はじく
始める	走る	恥じる	外す	働く
発音する	発見する	発行する	+発明する	話す
はなす	跳ねる	+省く	嵌める	生やす
払う	判断する	比較する	ひきあげる	+引き受ける
引きずる	引く	+弾く	引っ越す	引っ張る
否定する	+捻る	+冷やす	表現する	開く
+拾う	広げる	広める	拭く	ふく
含む	塞ぐ	防ぐ	ぶつける	踏む
ふやす	+振り返る	+振り向く	振る	減らす

経る	勉強する	放送する	訪問する	+放る
誇る	募集する	干す	保存する	ほめる
掘る	翻訳する	舞う	曲がる	巻く
まく	曲げる	まぜる	間違う	間違える
待つ	+祭る	纏める	学ぶ	招く
真似る	守る	+丸める	回す	回る
+見上げる	+見合わせる	+見送る	見下ろす	磨く
見せる	導く	見付ける	+見詰める	認める
+見舞う	みる・診る	+見渡す	+迎える	+剥く
蒸す	結ぶ	恵む	+捲る	+目めざす
儲ける	設ける	申し出る	用いる	持つ
戻す	求める	戻る	+物語る	+揉む
+催す	燃やす	貰う	漏らす	盛る
やく	約束する	+養う	休む	+休める
雇う	+やぶる	やめる	遣る	+有する
+茹でる	許す	緩める	要求する	要する
よける	+横切る	+汚す	止す	寄せる
予想する	予定する	呼ぶ	予防する	よむ
+弱める	理解する	利用する	+料理する	旅行する
連絡する	+論じる	わかす	分かる	分ける
忘れる	渡る	笑う	割る	

(2) 【—が—to】

〔例〕友人は管理職に就いている。(日・165)

合う	会う	上がる	あきる	呆れる
あく	+あこがれる	遊ぶ	当たる	+集まる
溢れる	+甘える	余る	改まる	表れる
歩く	生きる	威張る	+浮かぶ	受ける
動く	訴える	写る・映る	移る	促す
頷く	売れる	影響する	遠慮する	追う
負う	+応じる	拝む	遅れる	おさまる
落ち着く	落ちる	訪れる	驚く	溺れる
泳ぐ	及ぶ	おりる	折れる	輝く
掛かる	罹かる	かかわる	限る	隠れる
固まる	傾く	かたよる	勝つ	噛む
通う	関係する	感じる	感心する	関する
気付く	気に入る	決まる	崩れる	下る
組む	来る	狂う	苦しむ	暮れる
煙る	焦げる	凍える	志す	+腰掛ける
こたえる	零れる	凝る	転がる	壊れる
栄える	さかのぼる	下がる	+咲く	裂ける
刺さる	さす	さわる	+参加する	+賛成する
+茂る	沈む	従う	親しむ	死ぬ
しびれる	しまる	しゃがむ	就職する	出席する
出発する	知れる	過ぎる	優れる	+住む
すわる	成功する	成長する	接する	迫る
+沿う	+添う	+属する	育つ	備える
聳える	+背く	揃う	存在する	対する

耐える	倒れる	高まる	+漂う	立つ
達する	溜まる	頼る	近付く	近寄る
縮む	注意する	散る	通じる	支える
+擱まる	突き当たる	尽きる	付く	+着く
就く	+次ぐ	尽くす	伝わる	続く
突っ込む	努める	繋がる	躓く	詰まる
積もる	であう	+適する	出来る	出る
同情する	+到着する	通る	届く	飛び込む
とぶ	とまる	+富む	伴う	取り組む
努力する	なおる	流れる	なく	ならう
並ぶ	なる	鳴る	+慣れる	+馴れる
似合う	+滲む	寝る	逃れる	残る
のぼる	+乗る	+載る	入る	はえる
拍手する	励む	化ける	始まる	走る
恥じる	弾む	働く	跳ねる	反対する
ひきあげる	響く	開く	+広まる	ふえる
+耽る	ぶつかる	降る	触れる	減る
返事する	ほえる	微笑む	参る	舞う
任せる	負ける	まごつく	まじる	交わる
待つ	纏まる	学ぶ	間に合う	迷う
回る	満ちる	見付かる	みる	向かう
向く	結ぶ	面する	申し出る	もえる
+潜る	持ち込む	+持てる	+基づく	戻る
役立つ	やける	酔う	用心する	寄せる
呼び掛ける	よみがえる	寄る	因る・依る	弱る
+留学する	連絡する	わかれる	沸く	渡る
割れる				

(3) 【―が―と】

〔例〕後女は先月同僚と結婚した。(日・89)

合う	変わる	協力する	結婚する	交際する
異なる	試合する	戦う	違う	通じる
付き合う	繋がる	出会う	遠かる	取り組む
交わる	見える	恋愛する		

(4) 【―が―から】

〔例〕兄は親から独立して、近くのアパートに一人で住んでいる。(日・182)

上がる	溢れる	浮く	生まれる	落ちる
隠れる	来る	下がる	さめる	去る
立ち上がる	出る	遠ざかる	独立する	抜ける
覗く	外れる	はなれる	ひきあげる	引く
吹く・噴く	漏る	わかれる		

(5) 【―が―を〔に〕】

〔例〕後はとてもあなたを〔に〕感謝しています。(日・69)

懂れる	感謝する	欠席する	ごちそうする	しくじる
耐える	頼る	乱暴する		

(6) 【―が―を〔に・へ〕】

〔例〕この写真の中で、一人だけ後ろを〔に・へ〕向いているのが弟です。

(日・259)

向く

(7) 【―が―を〔に・へ・まで〕】

〔例〕 彼女はこの夏、パリを〔に・へ・まで〕旅行した。(日・287)

旅行する

(8) 【―が―に〔と〕】

〔例〕 投票の結果、後が今期の学級委員に〔と〕決まった。(日・75)

合う	会う	重なる	かわる	関係する
決まる	比べる	決定する	親しむ	対する
繋がる	なる	似る	ぶつかる	混ざる
混じる				

(9) 【―が―に〔で〕】

〔例〕 道路が雨に〔で〕濡れている。(日・203)

慌てる	安心する	動く	おどる	驚く
終わる	輝く	がっかりする	頑張る	腐る
苦心する	曇る	暮らす	苦しむ	苦勞する
困る	転ぶ	さめる	騒ぐ	失敗する
滑る	倒れる	黙る	疲れる	潰れる
電話する	溶ける	悩む	濡れる	始まる
流行る	びつくりする	震える	参る	纏まる
満足する	迷惑する	もえる	やぶれる	歪む
揺れる	酔う	汚れる	流行する	沸く

(10) 【―が―に〔へ〕】

〔例〕町工場が大企業に〔へ〕発展した。(日・218)

上がる	行く	浮く	動く	移る
落ちる	降りる	返る・帰る	通う	変わる
消える	切れる	下る	越す・超す	下がる
差す・射す	触る・障る	出発する	進む	滑る
近寄る	散る	通学する	伝わる	詰める
出掛ける	出る	通る	飛ぶ・跳ぶ	流れる
入学する	抜ける	上る・登る	入る	発展する
引っ越す	曲がる	回る	向かう	漏れる

(11) 【―が―に〔へ・まで〕】

〔例〕数人の記者が新聞社から現場に〔へ・まで〕駆けていった。(日・59)

駆ける	通う	転がる	下がる	進む
届く	のぼる			

(12) 【―が―に〔として〕】

〔例〕彼女は私生児に〔として〕生まれそ。(日・28)

生まれる	纏まる
------	-----

(13) 【―が……のを】

〔例〕口から口へと噂が広がるのを押さえるのは難しい。(日・37)

押さえる	我慢する	世話する	助ける	手伝う
とめる	なおす	眺める	待つ	やく
休む				

(14) 【―が……ことを】

〔例〕父は家をもう一軒買うことを計画している。（日・88）

あらわす	意味する	疑う	考える	計画する
心掛ける	実行する	示す	信じる	恥じる
発見する	勉強する	放送する	みる	理解する

(15) 【―が……かを】

〔例〕財政部は値下げができるかを研究した。（日・91）

当てる	覚える	思い出す	数える	計算する
研究する	試みる	知る	ためらう	理解する
忘れる				

(16) 【―が……のに】

〔例〕祖母は、孫があまりにだらしがないのに呆れていた。（日・4）

呆れる	謝る	苦心する	苦心する	苦勞する
困る	足りる			

(17) 【―が……ことに】

〔例〕姉はいつも部屋をきちんとすることに努めている。（日・171）

努める	努力する	因る	賛成する
-----	------	----	------

(18) 【―が……かに】

〔例〕生徒が熱心に勉強するかどうかは、教師の教え方が上手か下手かによる。（日・285）

困る

(19) 【—が……の〔こと〕を】

〔例〕その犬は彼女にかわいがられたの〔こと〕を覚えている。(日・45)

諦める	祝う	選ぶ	遠慮する	恐れる
覚える	思い出す	ける	悲しむ	歓迎する
記憶する	許可する	嫌う	後悔する	肯定する
避ける	悟る	叱る	承知する	証明する
調べる	知る	中止する	続ける	同情する
願う	望む	否定する	防ぐ	認める
やめる	許す	止す	予想する	予定する
喜ぶ	忘れる			

(20) 【—が……の〔こと〕に】

〔例〕みんなは彼が急に怒り出したの〔こと〕に驚いた。(日・45)

飽きる	驚く	協力する	失敗する	成功する
反対する	びっくりする			

(21) 【—が……の〔ところ〕を】

〔例〕幼児は危うくバイクにはねられそうになったの〔ところ〕を助かった。(日・148)

助かる	眺める	見せる	見付かる	見付ける
見る				

(22) 【—が……ことを〔に〕】

〔例〕兄は学校を止めることを〔に〕決めた。(日・76)

感謝する	決める	決定する
------	-----	------

(23) 【―が……ことに〔と〕】

〔例〕この新技術の開発は不振に陥って会社を再建できることに〔と〕関係している。

関係する

(24) 【―が……かを〔で〕】

〔例〕市内の高校はどちらが進学率を上げるかで競争した。（日・77）

競争する

(25) 【―が―の〔こと〕を〔に〕】

〔例〕彼の論理の進め方にはむりがあるの〔こと〕を〔に〕、彼自身気づいていないようだ。（国・898）

気付く

(26) 【―が……の〔こと〕を〔に・で〕】

〔例〕妻は、息子の成績が上がらないの〔こと〕を〔に・で〕悩んでいる。（日・195）

怒る 悩む

(27) 【―が…の〔こと〕に〔で〕】

〔例〕私は、隣人の話し声が大きいの〔こと〕に〔で〕迷惑している。（日・262）

迷惑する

(28) 【―が……かに〔と〕】

〔例〕この新技術の開発は不振に陥った会社を再建できるかどうかに関係している。（日・68）

関係する

(29) 【―が…く】

〔例〕 あの子は最近綺麗になっに。(日・197)

上がる	行く	うつる	切れる	過ぎる
進む	成長する	付く	出来る	出る
取り扱う	なる	運ぶ	働く	見える
やける	笑う			

(30) 【―が……て】

〔例〕 母は、子供が無事だとの知らせを聞いて、安心した。(日・14)

慌てる	安心する	怒る	驚く	がっかりする
悲しむ	感心する	腐る	苦しむ	困る
失礼する	助かる	楽しむ	悩む	びっくりする
参る	迷惑する	喜ぶ	弱る	沸く

(31) 【―が……と】

〔例〕 彼は、家が金持だと威張っている。(日・18)

威張る	疑う	思う	解釈する	考える
感じる	感心する	頑張る	消える	気付く
決める	繰り返す	後悔する	心得る	叫ぶ
騒ぐ	想像する	呟く	遠ざかる	説く
怒鳴る	判断する	踏む	放送する	交わる
認める	呼ぶ	喜ぶ		

(32) 【―が……(もの)と】

〔例〕 みんなは事件はすでに解決した(もの)と理解している。(日・284)

諦める	思う	考える	誤解する	悟る
信じる	見做す	みる	予想する	理解する

(33) 【―が... (もの・こと) と】

〔例〕 私は母は私の就職を喜んでくれる (もの・こと) と思う。(日・47)
思う

(34) 【―が..... (ではない) かと】

〔例〕 当局はその会社が所得を随分隠しているの (ではない) かと疑った。
(日・25)

疑う 思う 恐れる 考える 恐れる
心配する

(35) 【―が..... したいと】

〔例〕 彼は役人になるよりも、むしろ文学の世界で身を立てたいと望んでいた。(日・208)

希望する 望む

(36) 【―が..... しようと】

〔例〕 弟は大学時代から博士学位を取ろうと志している。(日・95)

慌てる 苦心する 決心する 志す けかる
申し出る

(37) 【―が..... しようかと】

〔例〕 卒業生はどういう仕事に就こうかと悩んだ。(日・195)

計画する 悩去 迷う

(38) 【―が..... しようと [するようにと]】

〔例〕 弟はいつもおもしろいゲームを作ろうと工夫している。

頑張る 工夫する 努める 努力する

C. 動詞価 3 の場合

(1) 【―が―を―に】

〔例〕犯人は探偵に秘密を打ち明けた。(日・25)

明ける	上げる	+預ける	+与える	当たる
集める	誂える	当てる	編む	謝まる
改める	表す	合わせる	案内する	言い付ける
言う	生かす	生きる	頂く	祈る
入れる	+植える	+浮かべる	受ける	歌う
+打ち明ける	打つ	写す	移す	訴える
埋める	恨む	売る	描く	追う
負う	置く	送る	+贈る	起こす
押さえる	収める	教える	惜しむ	落とす
驚かす	帯びる	覚える	思う	折る
降ろす	解釈する	買う	返す	抱える
掲げる	書く	隠す	掛ける	賭ける
重ねる	飾る	+貸す	数える	傾ける
固める	語る	担く	+被せる	被る
構える	聞く	刻む	築く	+着せる
希望する	教育する	着る	禁止する	禁じる
匂切る	配る	汲む	くるむ	+くれる
加える	拵える	擦る	零す	込める
転がす	壊す	催促する	裂く	叫ぶ
刺す	+授ける	誘う	強いる	敷く
沈める	支払う	絞る	示す	閉める
占める	主張する	準備する	+紹介する	招待する
知らせる	記す	推薦する	進める	薦める

する	整理する	背負う	迫る	世話する
+添える	育てる	備える	染める	揃える
焚く	蓄える	確かめる	足す	出す
尋ねる	訪ねる	畳む	立てる	+建てる
+例える	頼む	溜める	頼る	誓う
縮める	注意する	+貯金する	散らす	費やす
使う	突く	尽くす	付ける	+着ける
点ける	漬ける	告げる	都合する	伝える
続ける	突っ込む	包む	繋ぐ	積む
詰める	連ねる	釣る	吊るす	照らす
問う	通す	解かす	溶く	飛ばす
止める	+取り付ける	取る	治す	流がす
なくす	成す	習う	鳴らす	並べる
握る	縫う	撥く	塗る	残す
乗せる	述べる	計る	掃く	吐く
挟む	弾む	発行する	話す	離す
嵌める	生やす	払う	張る	引き上げる
引きずる	引く	+浸す	引っ張る	開く
広める	含む	塞ぐ	ぶつける	増やす
振る	触れる	振舞う	減らす	勉強する
報告する	訪問する	誇る	保存する	掘る
任せる	巻く	蒔く	負ける	曲げる
混ぜる	学ぶ	招く	真似る	回す
満たす	見せる	導く	見付かる	認める
向ける	結ぶ	命じる	命令する	恵む
設ける	申し込む	申し出る	用いる	持ち込む

戻す	求める	燃やす	漏らす	盛る
やく	訳す	約束する	雇う	遣る
+輸出する	譲る	許す	用意する	要求する
寄せる	呼び掛ける	呼ぶ	よむ	寄る
利用する	連絡する	わかす	分ける	忘れる
渡す	詫びる	割る		

(2) 【―が―を―と】

[例] 同僚は私の言葉を私が承知したものと取っに。(日・190)

諦める	合わせる	言う	威張る	歌う
怒る	恐れる	思う	解釈する	考える
感じる	誤解する	心得る	叱る	信じる
想像する	頼む	とる	名付ける	発音する
判断する	比較する	表現する	踏む	ほめる
認める	見做す	みる	予想する	呼ぶ
よむ				

(3) 【―が―を―から】

[例] 子供は兄から玩具を奪っている。(日・28)

預かる	集める	受け取る	受ける	奪う
選ぶ	得る	落とす	買う	隠す
削る	さける	さます	吸う	掬う
製造する	選択する	出す	立つ	つくる
とる	眺める	なくす	逃げる	盗む
逃れる	除く	望む	始める	外す
払う	引き出す	引く	学ぶ	見下ろす
見せる	みる	貰う	輸入する	

(4) 【―が―に―から】

〔例〕 姉は学校から家に戻っている。(日・268)

行く	掛かる	かわる	続く	変化する
戻る				

(5) 【―が―に―として】

〔例〕 姉はその会社に会計係として勤めている。(日・170)

聞こえる	就職する	付く	勤める
------	------	----	-----

(6) 【―が―に―で】

〔例〕 あと千円で貯金の目標に足りる。(日・156)

傾く	勝つ	協力する	足りる	負ける
----	----	------	-----	-----

(7) 【―が―を―に〔へ〕】

〔例〕 会社は担当名を新米社員からベテランに〔へ〕かえた。(日・53)

あげる	案内する	急ぐ	入れる	動かす
移す	落とす	拆れる	おろす	かえす
かえる	片付ける	切る	転がす	下げる
縛る	仕舞う	進める	すてる	例す
出す	通す	届ける	流す	逃がす
逃げる	捻る	乗せる	載せる	入る
這う	干す	曲がる	回す	迎える
向く	向ける	漏らす	遣る	呼ぶ

(8) 【―が―を―に [と]】

〔例〕私はガードマンを警官と間違えに。(日・246)

あらわす	合わせる	受け取る	訴える	かえる
限る	重ねる	決める	決定する	定める
する	揃える	訂正する	とりかえる	成す
間違う	間違える	結ぶ		

(9) 【―が―を―に [から]】

〔例〕私はフランス人に [から] フランス語を習っている。(日・195)

得る	教わる	惜りる	聞く	ならう
求める	もらう			

(10) 【―が―を―に [で]】

〔例〕妻は毎日の赤字に [で] 頭を痛めている。(日・17)

いためる	落とす	定める	さます	潰す
見付ける	持つ			

(11) 【―が―を―と [として]】

〔例〕一家は父を大黒柱と [として] 頼っている。

扱う	頼る
----	----

(12) 【―が―を [と] ―に】

〔例〕先生は「分かる」に「かる」を [と] 送る。(日・35)

送る

(13) 【―が―を [で] ―と】

〔例〕わが社は外国のライベル会社と生産量を [で] 競争して。(日・77)

競争する

(14) 【―が―に……ことを】

〔例〕わたしが犯人でないことを神に誓ってもいい。(日・157)

教える	誓う	注意する	述べる	報告する
命じる	命令する	求める	要求する	連絡する

(15) 【―が―に……かを】

〔例〕彼は同僚に、あした本当に会議がめめるかどうかを確めた。(日・147)

聞く	質問する	確かめる	尋ねる
----	------	------	-----

(16) 【―が……のに―を】

〔例〕彼は A 国独立が実現するのに一生を費やしたと言ってもいい。

(日・161)

費やす	掛ける
-----	-----

(17) 【―が―に……の〔こと〕を】

〔例〕私は神に、彼が犯人でないの〔こと〕を祈った。(日・18)

祈る	希望する	禁止する	禁じる	断る
知らせる	電話する	願う	認める	許す

(18) 【―が……の〔こと〕を―に〔で〕】

〔例〕気象台は、その年台風が異常に多かったの〔こと〕を日誌に〔で〕

記録した。(日・80)

記録する

(19) 【―が―を…く】

〔例〕 弟はその話を真に受けに。(日・22)

あげる	扱う	言う	受け取る	受けれ
運転する	思う	解釈する	かえる	感じる
暮らす	する	とる	塗る	引く
踏む	巻く	見せる	みる	

(21) 【―が―に…く】

〔例〕 大人の世界は子供にどう映っているのか。(日・27)

うつる	聞こえる	対する	乗る	運ぶ
見える				

(22) 【―が―に……と】

〔例〕 父は娘に、もっと早く帰きなさいと注意した。(日・159)

+挨拶する	謝る	言い付ける	言う	教える
書く	語る	答える	断る	叫ぶ
強いる	主張する	知らせる	注意する	伝える
電話する	述べる	話す	返事する	報告する
呼び掛ける	連絡する			

(23) 【―が―に……かと】

〔例〕 医師はわたしにどこが悪いのかと聞いた。(ニュ・336)

聞く	質問する	尋ねる
----	------	-----

(24) 【―が―に……するようにと】

〔例〕 合格発表の日、どうか受かっていますようにと、心の中で神様に拝
んでいた。(日・34)

祈る	拜む	催促する	注意する	伝える
求める	呼び掛ける	連絡する		

(25) 【—が—に……しろと〔するようにと〕】

〔例〕 彼はその娘に逃げろと合図した。(ニュ・3)

合図する 言い付ける 言う 命じる 命令する
要求する

(26) 【—が—に……しようと〔するようにと〕】

〔例〕 私はそのことは秘密にしようと心に誓った。(ニュ・847)

訴える 迫る 誓う

(27) 【—が—に……してほしいと〔するようにと〕】

〔例〕 文は会社に金を融資してほしいと銀行にお願いしている。(基・396)

頼む 注文する 願う

(28) 【—が—を〔に〕……しようと〔するようにと〕】

〔例〕 父は立派な社会人になろうと子供を〔に〕教育した。(基・163)

教育する

D. 動詞価 4 の場合

(1) 【—が—に—を…く】

〔例〕 父は子供に同僚のことを悪く言う。(日・15)

言う

(2) 【—が—に—を…と】

〔例〕 当局は記者団に A 大臣を無罪だと述べている。(日・209)

言う 述べる

4. 動詞価ベストテン

上述したところを見ると、動詞価は1~4を基礎にしてその下位分類がいかに複雑できるかが分かる。しかも、個々動詞は一つしかない動詞価を持っていることが珍しく、あたかも一国一言語は少数派であるかに見える。以下、動詞価ベストテンを中心にその状況をみていくが、ベストテンそのものが、従来の通説とはいささか異るところに、その面白さが現われている。

動詞価ベストテン

		動詞延べ数	百 分 比
1.	―が―を	580	58 %
2.	―が	284	28.4 %
3.	―が―を―に	273	27.3 %
4.	―が―に	252	25.2 %
5.	―が―に [で]	46	4.6 %
6.	―が―に [へ]	40	4 %
7.	―が―を―に [へ]	40	4 %
8.	―が―を―から	39	3.9 %
9.	―か……の [こと] を	37	3.7 %
10.	―か―を―と	31	3.1 %

つまり、1位は【―が―を】（主格・対格）、2位は【―が】（主格）、3位は【―が―を―に】（主格・対格・位格）、4位は【―が―に】（主格・位格）のように、日本語動詞の文構造はほぼこの4つの動詞価タイプで掬い切れるのである。図示すれば次の如くである。

—が—to	—が
—が—to—to	—が—to

【—が—to】を除く【—が】 【—が—to】 【—が—to—to】は三者とも動詞延べ数がほとんど同じだと言ってよかろう。もっとも、「に」が必須成分であるかどうかは動自身の意味特徴と関係するのだが、今までの辞書では動詞を自動詞は【—が】、他動詞は【—が—to】のように分けてあるのがほとんどなのは、「に」が必須成分でないものと見なされることによるだろう。上表に則して言えば、【—が—to】は【—が】、【—が—to—to】は【—が—to】の一種の延長線なのである。記述の簡潔化にはそれないの道理があるが、「に」の一切切無視はあまりにも言語事実から逸れるに違いない。【—が—toに握み付く（自動詞）】と【—が—toを握む（他動詞）】の間には形式上の違いこそあれ、受動態の表現においては何の差異もないことはすでに周知の通りであろう。かくて、【—が】 【—が—to】 【—が—to—to】をまとめて、基本動詞価と定義できよう。

もっとも、5位は【—が—toに[て]】、6位は【—が—toに[へ]】、7位は【—が—to—toに[へ]】のように三者とも「に」を中心に、「で」か「へ」の置換がなされることに注意されたい。「で」と「へ」との両者は「に」に置換可能な場合にのみ、必須成分の一員と認められよう。これは位格「に」の複雑さの一端をうかがわせる。8位【—が—to—from】の「から」も起点を意味することで、着点を意味する「に」と関係づける。こうした点から見ると、位格「に」はかなり厄介なものと言えよう。ちなみに、小稿では「へ」が成立する所に必ず「から」が存在することから、両者は一種の相補分布関係にあるので、動詞価の記述に際してはペアをなす「から」と「へ」の内、「から」を除外することにした。

一方、【—が—to】は「を」付きの名詞組であるのに対して、【—が……の[こと]】は「を」付きの拡大名詞^⑧組なのが注目される。注意すべきは同じ括

大名詞組であっても、【―が……の〔こと〕を】が多用されるのと対照的に【―が……のを】と【―が……ことを】が比較的少ないことであろう。【―が―に】に対応する【―が……のに】【―が……ことに】【―が……の〔こと〕に】に至っては0.7%、0.4%、0.7%とわずかな百分比を占めている。【―が―に―を】対応する【―が―に……のを】【―が―に……ことを】【―が―に……の〔こと〕を】の内、【―が―に……ことを】だけしか使えないことは興味津津である。上述した基本動詞価に対するものは次のように図示されよう。^④

―が―に	―が
―が……のに	
―が……ことに	
―が……の〔こと〕に	
―が―に―を	―が―を
―が―に……のを	―が……のを
×―が―に……ことを	―が……ことを
×―が―に……の〔こと〕を	―が……の〔こと〕を

10位の【―が―を―と】の百分比が低くないのは【―が……と】が補文の主語繰り出しで【―が―を…と】になって、さらにもう一歩進んで【―が―を―と】へと変わることによる。つまり、この種のタイプは【―が……と】を起源とする【―が―を―と】とそうでない【―か―を―と】とが合流流したものと見なされよう。

③ 拡大名詞はいわゆる連体句に相当する。

④ この場合、「ところ」の拡大名詞は不問に付される。

4. まとめ

上述したところを見ると①動詞の実現において、「名詞組」と「副詞（組）」が持たれる②北原氏（1981）が二分分かれ構造に似ている③動詞価が1～4とある④基本動詞価成分が【―が】【―が―に】【―が―を】【―が―を―に】と四つ存在するのと対照的に、そうでない動詞価成分が非常に多様性に富んでいる―などのことが分かる。このような結論に達するのは、筆者自身による恣意的な判断ではなく、言語データに基づいたものなのである。もちろん、例えば「決める」の動詞価成分である【―が―を〔×に〕】と【―が―を……ことを〔に〕】の間に見られる格置換可能な言語事実などをどう説明するかは今だに未解決のままであるが、これは今後の課題としたい。

参考文献

- 1) 石綿敏雄 1983『文法と意味 I』朝倉書店
- 2) 北原保雄 1981『日本語助動詞の研究』大修館
- 3) 森山卓雄 1988『日本語動詞述語文の研究』明治書院
- 4) 言語学研究会編 1983『日本語文法連語篇（資料編）』むぎ書房
- 5) 仁田義雄 1980『語彙論的統語論』明治書院
- 6) ——— 1989「拡大語彙論的統語論」『新日本語学の展開』くろしお出版
- 7) 益岡隆志 1987『命題の文』くろしお出版
- 8) 村木新次郎 1982「動詞の結合能力をめぐる」『日本語教育 47』
- 9) 寺村秀夫 1982『日本語のシンタクスと意味 I』くろしお出版
- 10) 奥津敬一郎（他） 1986『いわゆる日本助詞の研究』凡人社
- 11) 趙 順文 1989「結合価文法から見たもう一つの必須成分」『東吳日本語教

育 12』

- 12) ——— 1990「動詞結合価の記述と分析への試案——『石綿敏雄・荻野孝野両氏の日本語用言結合価表を批判して』を踏まえて——」『東吳日本語教育 13』
- 13) ——— 1991「『現代日漢大詞典』の動詞価の記述と分析」『台湾日本語文研究会 2』
- 14) ——— 1991「結合価文から見た動詞の三つの必須成分」『東吳外語学報 6』
- 15) 湯 廷池 1990「対照研究と文法理論(-): 格位理論」『東吳日本語教育 13』
- 16) 近藤いね子共編 1986『小学館プロレシブ和英中辞典』小学館、略号『小』
- 17) 林史典共編 1986『国語基本用例辞典』教育社、略号『国』
- 18) 小泉保共編 1989『日本語基本動詞用法辞典』大修館、略号『基』
- 19) 趙順文編 1990『日文動詞搭配句——1000 個動詞基本句型総整理——』建強出版社、略号『日』
- 20) 山岸勝栄 1991『ニュー・アンカー和英辞典』学習研究社、略号『ニュ』

[付記] 小稿の執筆に際しては黄本元氏の語学ソフトウェアは大変参考にさせていただいた。謹しんで謝意を表したい。